

音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

会議名	音更町総合計画推進委員会（平成24年 第2回）
開催日時	平成24年10月26日（金） 午後7時から午後8時45分
開催場所	音更町役場庁舎4階401・402会議室
委員出席者	津久井委員、林委員、町山委員、前田委員、畠委員、栗原委員、所委員、藤川委員、西嶋委員、杉山委員
町側出席者	《事務局》 杉本企画財政部長、渡辺企画課長、定村企画調整係長、松井企画調整係主任、惣万企画調整係主任、阪本企画調整係主任
議題・諮問内容	1 委員長あいさつ 2 議件 重点施策推進管理評価調書の検証について 3 その他 次回のスケジュールについて
会議資料	第1回で配付した資料一式 ※議案についてはホームページに添付しています。
出された主な意見等	<p>（重点施策推進管理評価調書の検証について）</p> <p>◆重点施策1に対する意見等</p> <p>委員：評価調書について、指標ではマイナス評価で、推進状況では高い評価がされているものが多々あり検証方法がわかりづらい。</p> <p>委員：評価方法について、進み具合が平均であれば3、目標より少し良ければ4、目標よりもう少し良ければ5のように3をベースに善し悪しの評価をする方法が理解しやすいと思います。</p> <p>事務局：3をベースにすると見る方も理解しやすいと思いますが、こちらの評価で3は「遅れがある」で20から50パーセントの進み具合となっています。5は80から100パーセントの間で「順調に進んでいる」となり、そして4は「やや遅れがある」で半分から80パーセント程度です。2については「着手した程度又は未着手」と言うような5段階評価になります。</p> <p>委員：1,000万円の予算に対して500万円で高い効果を得る事ができたとしたら評価5を10にするなどの考え方も必要だと思います。企業会計のような方法で進めていかないと、評価も難しいです</p> <p>委員：評価調書进行评估するといいますが記載内容が非常に漠然として、気がついた提言等を話す事はできますが、今町が進めている施策に対して善し悪しを付けるのは中々難しい事と思います。</p> <p>委員：観光客が減っている状況に対し、今後どう進めるかの「施策の方向性」があまり記載されていないように思います。最終的な目標は観光客の獲得ですから、今の現状を考えると、それに対しての内容が記載されていないと「このままで良いのか？」と思うのは普通だと思います。今の状況が良くないのであれば、もっと他の方法を考えるのが本来の総合計画のやり方だと思います。</p> <p>委員：企業の誘致に関して（町が）強力的に施策を進める事でより結果が出ると、我々民間から見て感じます。</p> <p>委員：IC工業団地の土地の利用は現在3分の2ほどですか。</p> <p>事務局：もう少し多く利用されています。</p>

委員：帯広市内のスマートインターチェンジに関する記事が新聞に掲載されており、工業団地と高速道路の利便性の関係が今後どのようなようになるのかが疑問に思います。優遇措置の問題もあると思いますが、企業側の考え方が「別に音更町の工業団地でなくても良い」となる事も考えられるので、早めの対策が必要だと思います。

委員：新たな観光開発や特産品の開発などを産業連携を進めるとの項目がありますが、新しいジャンルを切り開いていく時に、それを進める新しい人材が必要だと思います。新たに特産品の開発をする時に中心となる人材を誘致し、その人を助ける地元チームを作り初期の開発を進めていくなど人材や小さな組織の誘致から進めて、起業を推進するのも策だと思います。観光につきましても、十勝の事を熟知している人が十勝でしか味わえないメニューを開発し、5、6人程度で十勝川温泉と連携して進めていくなど、小さな会社を起業する時の最初のポストを公募し、新しい芽を作るやり方が必要だと思います。また、イに後継者育成については、家族だけではなく、地域として農業経営者を育てていくのであれば法人化を推進するうえで具体的に力強く進めることが必要だと思います。

◆重点2に対する意見等

委員：温暖化に対するCO2の排出量削減とありますが、目標値が無ければ評価は難しいと思います。省エネの推進について民間企業などに目標値を持たせていますか。

事務局：音更町地球温暖化対策実行計画の中で公共施設のCO2削減計画、その上に企業も含めた町全体での計画が当初位置づけられていましたが、現在は民間を対象とした計画はなく、町所有の各公共施設でCO2削減に取り組んでいます。また、全国で見ると、政令指定都市等では民間にもCO2削減の義務づけがされておりますが、町村レベルでは持っていないのが現状です。

委員：目標値を持つ事で、町民や企業が環境に対する意識も変わると思います。CO2排出量を抑えている企業と抑えきれない企業との間でCO2を売買し、互いに目標値に向かい進める事が必要かと思えます。調書に記載されているようにハイブリット車やLEDの普及、各家庭の電気使用量がこれだ減ったと分れば環境に優しいまちづくりとして進められます。政令指定都市は義務づけられているとの事ですが、町もやるべきだと思います。

委員：地元の木材を使用して公共施設を建設するなど、色々な意味で森林利用を活性化することは大きな意味で森林の管理と同時に地元の産業活性化につながる方法だと思います。例えば、音更は広いので公共施設は3階建てにせず2階建てにとどめて「全て木造建築のまち」にするとか、一般の住宅が地元の木材を使用して「木でできているまち」などの特色ができれば観光的にもメリットがでてくると思います。

◆重点3に対する意見等

委員：農村部の水道の確保は100パーセントになるまで進めるのですか。

事務局：現在、東部、下士幌で実施してまして、基本的には既存施設の更新です。

委員：農村部の普及率が何パーセントに達したら打ち切るなどの決まりはありますか。

事務局：補助事業等を活用しながら地区別に分けて簡易水道や営農用水となる事業で飲み水を確保するようにしています。東部が終了しましたらほぼ全体にいき渡りますので、残りは整備済の管の維持管理となります。

委員：これからのまちづくりには「コンセプト」が大切だと思います。地域にまとまって住むなど、効率的な形にしていけないと少子化で人口も減ってきており、少ない人たちで大きな負担をしていくことになることも考えていかななくてはならないと思います。

委員：公営住宅について全国的な話ですが、入居している方の多くが退居せずにそのまま住み続けているとのこと。平均で2DKクラスの住宅で家賃も安く入居条件も低く設定されていて一度入居するとそのまま住み続ける方が多いです。公営住宅として本当にそれで良いのか疑問に思います。

委員：イの重点施策について、車道を照らす街灯は明るいですが、歩道面を照らしている街灯は街路樹が育つと隠れてしまい暗い箇所が多いと思います。防犯や通学路の整備の件から必要と思います。

◆重点4に対する意見等

委員：コの「芸術文化の鑑賞機会を提供します」で、町民アンケートの結果も、文化センターの利用数も下がっていますが、減少理由は何ですか。その件について対策をどのように進めるのか把握している範囲で結構ですので教えてください。

事務局：詳しく把握しておりませんが、生徒数の減少が主な原因と聞いております。学校単位で利用することがありますので、利用数は毎年変動します。